

本人に寄り添う支援に向けての取り組み

社会福祉法人 秀生会
特別養護老人ホーム ヴィラージュ富士
訪問介護事業所 ホームヘルパー 渡邊朋美

ヴィラージュ富士 施設概要

開設 平成15年11月

- 訪問介護事業所（常勤5名、非常勤1名）
- 特別養護老人ホーム（定員 80名）
- 短期入所（定員 10名）
- 通所介護（定員 一般40名、地域密着12名）
- 居宅介護支援事業所



I、本人に寄り添う支援に向けて 取り組んだきっかけ

ご利用者の体調不良の変化に気づけず、
入院や利用中止になるケースが続いた



変化に早く気づきたい...
安心して在宅生活を送ってほしい...

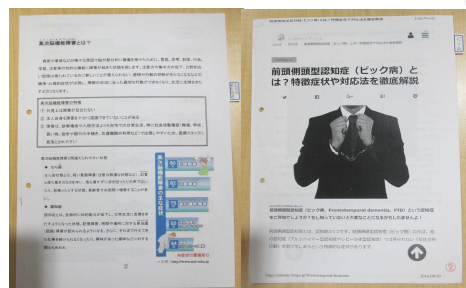
なぜだろう？と個々のヘルパーが感じ始めた
原因を分析してみよう！

- ▶ 情報共有不足
- ▶ ご利用者を観察する個々の視点の相違
- ▶ 支援内容と手順、緊急時の対応の認識不足
- ▶ 病気に対する知識不足

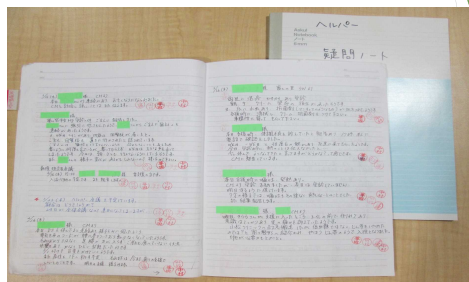
支援体制の見直し、
環境整備が必要！

Ⅱ、具体的な取り組み

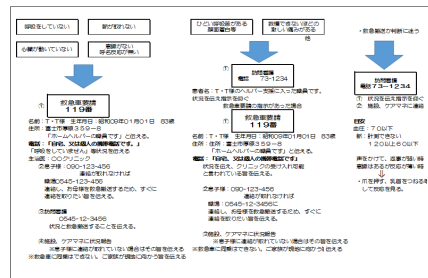
1. 病気について勉強会を実施



2. 連絡ノート、疑問ノートを活用



3. 個々のご利用者の急変時の 対応方法の見直しとフローチャート作成



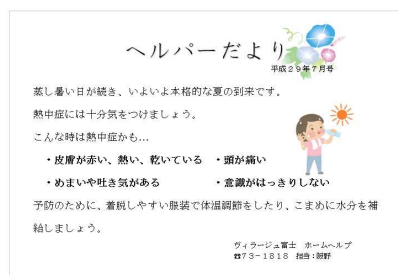
4. 緊急連絡先、避難場所の再揭示

氏 名	渡邊 朋美 殿 (S 21. 2. 11)
住 所	富士市厚原359-8
電 話	0545-73-1818
緊急時 連絡先	①渡邊 太郎 ☎090-123-456 ②渡邊 花子 ☎090-123-456 ③ ☎
主治医	〇〇病院(〇〇町) ☎ 73-1234
既往歴	統合失調症・糖尿病・高血圧 狭心症・心不全
避難場所	〇〇公会堂 ヴィラージュ富士ホームヘルプ ☎ 73-1818

5. ご利用者を担当制へ

- 訪問介護計画書の確認
- 支援内容の手順書の見直し
- アセスメントシートの更新
- 毎月行うヘルパー会議で支援状況の報告

6. 健康への意識と感染予防の啓蒙活動 新たに「ヘルパー便り」を発行し配布



Ⅲ、活動による成果と評価

- 病気の知識、観察の視点を理解できた
- 連絡ノートを活用する事で情報を共有し、継続的な支援ができるようになった
- フローチャートを作成した事で、冷静な判断や緊急時の心構えができた
- 担当制にした事で、専門職としての責任感と意識が高まり、各ご利用者の持つ課題と改善策が明確になった
- ヘルパー便りを配布した事で、ご利用者自身でも健康に注意するようになり、家族への情報提供にもなった

Ⅳ、今後の課題

ヘルパーとして、担当のご利用者の把握はできるようになったが、担当外のご利用者の把握が不十分という結果が見られた
今後、担当をローテーションすることで、他のご利用者の把握もできるようにする

Ⅴ、まとめ

- ご利用者をより深く知ろうという気持ちがヘルパーに芽生え、限られた時間の中でコミュニケーションをとり、新しい発見・気づきが増えてきている
- 体調の変化に早く気づき、ご家族に早く報告することで、症状を悪化せずに済んだこともあった
- 記録の重要性や情報の共有の大切さを理解した



本人に寄り添う支援ができるようになったことで、ヘルパーとしての喜びや自信に繋がった

ご清聴ありがとうございました

